

国立大学附属病院大学病院災害管理技能者養成研修会に参加しました (2016/3/16-18)

テーマ：国立大学附属病院大学病院災害管理技能者養成研修会、UDME
場所：岡山大学（岡山県岡山市）

2016年3月16日(水)～18日(金)の3日間、岡山県岡山市の岡山大学津島キャンパスにおいて平成27年度第2回国立大学附属病院大学病院災害管理技能者(UDME)養成研修会が開催され、当研究所の佐々木宏之助教(災害医学研究部門 災害医療国際協力学分野)が参加しました。

本コースは、文部科学省の防災業務計画に沿って昨年度から開催され、大学病院内での災害対策(計画策定、体制整備、訓練・研修)に関与する専門職員、大学病院災害管理技能者(UDME: University Hospital Disaster Management Expert)を養成する研修会です。UDMEには院内での活動のほか、DMAT(災害派遣医療チーム)が活動したあとの発災後亜急性期～慢性期に、被災地域において国立大学病院ネットワークを駆使した医療チーム派遣や物資配分のコーディネート機能なども求められています。

今回は日本全国の国立大学病院から27チーム108名(1チームは医師1名、看護師1名、薬剤師1名、事務1名の計4名で構成)が岡山大学に集結し、3日間にわたり災害医療に関する講義、シミュレーション・実技訓練などを受講し、最終日に100問の筆記試験を受けました。

研修ではまず、各大学病院からの参加者がバラバラのチームに再編されチームビルディングを行います。災害医療の基礎知識や災害対応の原則に関する講義を受けた後、災害対策訓練の計画立案・実施、被災地内の病院対応、災害対策本部活動といったシミュレーション訓練や、模擬診療による災害時診療記録やトリアージタグ記載、衛星携帯電話使用などの実習を行いました。災害対策本部活動シミュレーション訓練では実災害さながらの緊迫感の中、次々と本部に送られてくる情報の処理に、病院長や看護部長を含む即席チームが冷や汗を流しながら対応しました。

次回は今年7月に東北大学で開催される予定で、開催に向けた準備が徐々に始まっていきます。

UDME研修会の意義

- ・災害対策常置委員会、災害対策WGの方針・決定事項を周知する
- ・人材豊富な大学病院において災害医療に精通した人材を数多く育成する
 - 学内での様々な活動を通じて、全体の底上げになる
 - 職員の意識向上につながる
- ・大学病院としての災害対策強化の質・実効性をあげる
- ・大学病院間のネットワークを強化する

大学病院への協力要請

第2編 地震災害対策

第2章 災害応急対策(地震災害発生の場合の応急措置)

第1節 情報の収集、伝達

※被災地域の大学病院から人的被害や診療活動状況など必要な情報を収集

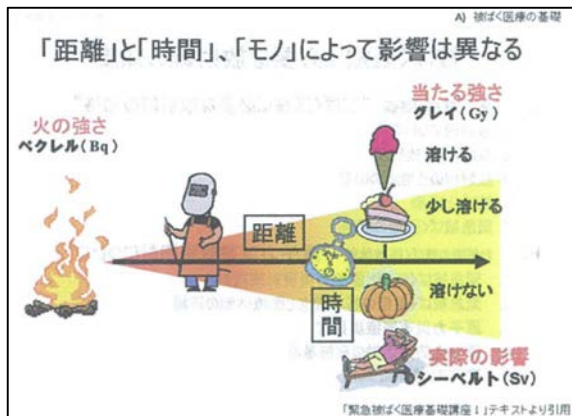
第8節 被災者の救護活動への連携、協力

(2) 大学病院の救急医療活動

- ・大学病院に対し、迅速かつ円滑な被災地域の患者の受入に協力するよう要請する。
- ・大学病院に対し、迅速かつ円滑な被災地域への医療チームの派遣及び医薬品等の搬入に協力するよう要請する。
- ・患者の搬送、医師の派遣、医薬品などの搬入に関しては、必要に応じ、緊急輸送として関係省庁に要請するなど、被災地と周辺地域の円滑な輸送が行えるよう努める。

※第3編(津波災害)、第4編(風水害その他災害)、第6編(大規模事故災害)についても同様

8



(講義資料。左上：UDME 研修会概要説明。
右上：文部科学省説明資料(防災業務計画の抜粋)。左下：被ばく医療講義資料、ベクレル・グレイ・シーベルトの違い。)

文責：佐々木宏之(災害医学研究部門)